



MHC会報

Vol.6 (1) 2025. 8. 21.

(発行)NPO大学院連合

メンタルヘルスセンター

540-0012 大阪市中央区谷町1丁目6-4

天満橋ハ千代ビル10階DE号

Tel.06-6755-4458 Fax. 06-6755-4459

巻頭言

今回の万国博覧会開催に寄せて

－55年前と現在－

代表理事 三戸 秀樹

1. 将来の人口構成：EXPO70での警鐘

大阪におけるEXPO70開催の1~2年前のことである。当時の大阪医科大学・衛生公衆衛生学教室・主任教授の吉田壽三郎先生が、近い将来の日本の人口構成がずいぶん急速に高齢化することについて、警鐘を鳴らすべく、万国博覧会で当内容を掲示することを考えられた。資金がないので企業を回られ、意図する高齢化する将来予測データについて出展したいので資金援助のお願いをされました。折しもシャープK.K.を訪問され、当時の中央研究所の三戸左内所長に援助を申し出られました。しかし、シャープはすでに万博には出展しない基本方針を決めていたので、協力ができない旨を返答された。ちなみに三戸は、早川徳次・社長からの依頼で、大学の理学部の教授をやめてシャープ中央研究所を天理に創設し、その長をしていた。大学研究者の気持ちがよく理解できる産業人として、吉田先生へ何とか協力ができるかと考え、結局、社の基本方針とは異なる万博出展に関する資金援助を決めた。後日、三戸左内の息子（秀樹）が医学部・公衆衛生学教室の教員となり、日本公衆衛生学会で吉田壽三郎先生に会って、吉田先生が万博出展資金の謝意を述べられたことを記憶している。1970年の万博後4年目に吉田先生は、「日本老残列島—20年後の長命地獄ー」（小学館）を出版された。少子化時代の到来を前回の万博から数えて55年前に予言をされていたのである。そして吉田先生は、大学定年後に日本ウェルエージング協会を創設された。

今日、わが国が少子高齢化社会に突入している事実は、多くの人たちもよく知っている。作家・酒井順子さんの25年前の作品「少子」において、減って減ってへりまくると述べられているが、吉田先生の御指摘は、いまから遡ること半世紀以上前の指摘であった。しかし、万博後の政府の動きはにぶく、25年ほど経過して、重い腰を上げ始め、その後30年以上にわたり、各種の少子化対策を打ち出したが、目に見える効果は出でていない。そればかりか、2015年に英國のサセックス大学で開催されたセミナーで、ロナルド・スケルドン名誉教授は、「日本の無策は特殊で、回復不可能。政策決定者たちの近视眼的対策が不思議だ」とさえ発言をした。

政府のお膝元である厚生省管轄下に「人口問題研究所」が1939年に創設され、1996年に特

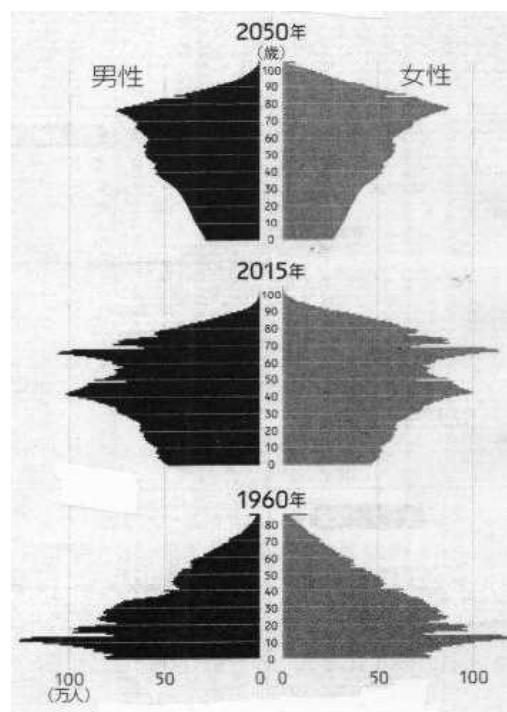


図. 1 人口ピラミッド

株式会社社会保障研究所と統合して、厚生労働省の「国立社会保障・人口問題研究所」となっている。この研究機関において、わが国人口の高齢化や超高齢化状態や将来予想が示されている。2024年度の子ども出産は、ついに70万人を割った。100万人割れが報じられてから、わずか9年後の有様だ。少子化対策について政治家の怠慢、国の役人の怠慢ということは簡単だが、効果のある対策打ち出しについては、識者の意見を聞きながら施策とその運営へと反映させなければならない。既存施策のほとんどが、「産めという圧力」へつながる近視眼的少子化対策であったことが、そもそも失敗の最大因ではないのか。

しかし母親として、そして働き手として、いづれも満足出来ない女性状況に対して、寄り添った明るい未来がみえる具体的対策こそが、いま待たれているではないか。「自分の生き方は自分で決めることが出来る」と思える社会状況・状態を作ることこそが、一番大切なではないだろうか…。表面的ではなくて、心の底から彼女たちの行動傾向を変えることが出来る社会条件の設定が喫緊課題であろう。

2. “主人公化”心理からの解題

2.1. その後の経過－高度経済成長時代を経て－

1970年万博から55年後の万博開催までのあいだに、ひとびとの“こころ”には“主人公化”心理が顕著に現れはじめた。そしてそこからは、一層の家庭の外化現象とも言える、食事の外化＝外食化への急傾斜が観察された。思い返せば、前回の万博があった1970年は外食元年に位置づけられているのだ。具体的には、70年万博を契機にファーストフードが上陸した。そしてフライドチキン、ドーナツ、ファミリーレストランの人気が急上昇した。ファミリーレストランでは揚げ物人気が起った。そして植物油は、1970年から2000年の30年間に2.5倍に増加し、2024年度は255万トンになった。同時に、廃食油は年間約50万トンが回収・処理されている。同時に1970年は、政府が米減反政策を開始した年でもあった。また、食卓のおかずが洋食化をし、ごはんのお替わり頻度も減少した。当時の高度経済成長（1955年～1973年）は、阪神工業地帯の公害問題を拡大させ、小児ぜんそくや光化学スモッグが頻発をした。この象徴のひとつは、阪神間をつなぐ道路の43号線の公害問題でもあった。

このような社会変化の動きと、時には批判の裏に平行して進展してきた“こころ”的変化を直視すること。すなわち、“主人公化”心理を理解すると、そこから「自分の生き方は自分で決めるのだ」と思える・言える社会状況・状態を作ることこそが重要なのではないだろうか…。MHC会報Vol.4(4)に記した「主人公になりたい人々の社会（その1）」では、クリぼっち、ソロモンの時代について言及した。クリスマスに一人で過ごす人たちが多く観察され、20歳代独身男性では、恋人・友人・家族と過ごさない割合が上昇をしている。クリスマスを一人で過ごす、所謂クリぼっちは、際立ってきたきらいがある。この先の孤独な生活へ向かう道程が見え隠れをしているのである。博報堂のソロ男プロジェクトからは、2035年のソロ男、ソロ女、離別死別を含むソロ生活者たちが4800万人を越えると予想しているのだ。英国に次いで日本は、孤独・孤立担当大臣を設置した。しかし、政府はあなたの友だちは具体的に作ることは出来ないのである。このひとり生活者から、次代を担う子ども世代の再生産が期待出来なくなってきた。同時に女性の動きへ影響を与えるものとして、世界経済フォーラムが調べているジェンダーギャップ指数データを基礎におく「世界ジェンダー・ギャップ報告書」が公表されている。2025年度は148カ国の中なかで118位であった。また、G7のなかでは日本は最下位である。管理職や役員への登用達成率は19.2%（2025年）であった。厚労省の雇用均等基本調査によると、管理職に占める女性割合は、2023年度は役員20.9%、部長職7.9%、課長職12.0%、係長職19.5%であった。男女雇用機会均等法が1985年に出来て、1970年に改正されて男女の差別的取り扱いが禁止され、発足から40年を越えたのだ。しかしながら、女性管理職比率は低く、男女の賃金格差はなお大きいままである。

女性の社会進出状況や、そこにおける見えにくいガラスの天井状態などから、女性たちが受

け止める幸福度はいまだに高くない状態にある。国連の関連機関がまとめている世界幸福度報告は2012年からはじまった。2019年3月の発表では、日本は58位で過去最低ランクингであった。評価方法は、各国の各3千人程度を対象に生活の満足度を「0~10」で点数化をし、この数値をもとに総合順位をつけたものである。上位3位までが北欧3カ国で、欧州諸国がトップ10のほとんどを占めている。わが国のランクを下げた内容は、人生の選択の自由度64位、寛容さ92位などが足を引っ張っていた。女性の国会議員割合の低さ、事業所の長である女性割合の少なさなどは、女性の選択の自由度の低さや寛容さの低さを反映しているのであろう。

2.2. 経済成長が期待できない低成長時代

江戸時代の鎖国状態では、今日ほど経済的には豊かではなかった。しかし、人々の幸福度は決して低くなかったのではないだろうか？当時は封建時代でもあったので、結婚や就職について自分自身でアレコレと独自に決めることが出来なかつたはずである…。ハローワークはなくて、口入れやとか斡旋・斡旋業者に高いピンハネ料を払つての就職であった。また、現状のようにゴミを沢山輩出する現代生活ではなくて、江戸時代は徹底的にモノを再活用して使つた時代でもあつた。あの江戸時代の絢爛たる元禄時代の繁栄と、今の栄華の比較を今一度考えなおしてみる時期にきていると思う。

戦後、暮らしが豊かになって、現在ふたたび暮らしが苦しくなりはじめているが、他方、犯罪率は低くおさえられている。しかし“主人公化”時代となって、自身で決める自由度も少しは大きくなつたが、主観的幸福度はかなり低い状態に据え置かれている。この結果生じている主観的幸福度のあり方が、実は問われているのではないのだろうか？

3. 万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」から

今回の万博テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」である。この万博に参加すると、現状のわが国における少子化社会とそれに伴つた超高齢化社会の次の社会に関する対策デザインが、果たして具体性をもつて見えるのだろうか。同様な少子化課題を有しながら回復させたフランス、英国、スウェーデン、フィンランドなどの場合、近年の韓国や遠からずの将来の中国における少子化と高齢化課題など、同様課題を有する国々がいたり、いたのだから、今期万博として、前回開催時に吉田先生によって呈示された重要課題は、バトンを受け取り、応答できるものを具体性をもつて世界へ明確に示す万博なのではないだろうか。

【参考資料】

吉田壽三郎 1974 日本老残列島—20年後の長命地獄— 東京：小学館。

三戸秀樹 2024 主人公になりたい人々の社会（その1）—互助（共助）の必要性への道筋— MHC会報、Vol.4(4)号、4~11。

現行のストレスチェック測定法について —尺度と客観的指標の問題—

三戸 秀樹

1. 現行の問題点

1.1. 数的処理における制約

現行のストレスチェック制度は、労働安全衛生法第66条の10に係るもので、2015年12月に施行され、すでに10年の経過がある。さらに2025年5月に労働安全衛生法の改正法案が可決成立し、従前の50人以上の事業所のみのストレスチェック施行ではなく、50人未満の事業所においても実施することが義務づけられた。もっとも、施行までの猶予期間は3年間で、それ以降は義務化されることになる。

さて、現在最も多く採用されているストレス測定法は一部に不備をもつもので、厳密には、このような測定方法でヒトのストレス測定は出来ないと考える。4段階尺度の順序尺度を用いているので、出た数値を加算したり、平均値を求めるることは許されない。たとえそうしても、

出した数値の大小を云々することは出来ないのである。したがって、出来るだけ速やかにヒトが受けているストレスの大小を客観的にとらえる指標を提案すべきである。

まず、現行のストレス指標としての不備について説明をしてゆこう。この内容は、4年制の心理学科や心理学部で学べば、「心理学統計法」とか「心理測定法」あたりの講義で必ず受けられる内容である。そこにおいては、表1のような4つの尺度分類について必ず言及している。

表1. 尺度分類の一覧表

尺度	特性	許される統計的処理	例
名義尺度	同一性	事例数の計測、	商品番号、選手の背番号、車番、国際標準図書番号、
順序尺度	大小関係	メティアン、パーセンタイル、順位相関、	モース硬度
間隔尺度	数値間隔が同等 原点は任意	算術平均、標準偏差、順位相関、ピアソンの相関係数、	摂氏や華氏の温度、西暦年号、
比率尺度	数値の比が同等 絶対原点ある	幾何平均、変異係数、	長さ、重さ、密度、絶対温度、

従前の心理学統計法や心理測定法の書物の多くは、Stevens,S.S.が著したHandbook of Experimental Psychologyから言及しているものが多く、尺度分類を4つに分けています。この尺度分類は、①尺度の特性、②許される統計的処理、③具体的な例などの側面から明示すると、表1のようになる。

現在使われているストレスチェックの評価尺度は、順序尺度であって、間隔尺度でもなければ比率尺度でもない。すなわち、モース硬度の尺度構成とおなじ種のもので、算術平均値を算出することには耐えないのである。順序尺度の例としてモース硬度（Mohs' scale of hardness）を例に考えてみよう。モース硬度は、鉱物に関する簡単な硬度尺度の1つである。10種類の標準鉱物とそれに対応する1から10までの整数値を定めておいて、どの標準鉱物で引っかいた時に傷つくかによって硬度を定めている。ちなみに、硬度10は金剛石（ダイヤモンド）である。例えば、萤石（硬度4）で引っかくと傷がつかないが、燐灰石（硬度5）で引っかくと傷がつく鉱物は、4と5のあいだのものとしている。モース硬度が定めているのは「あるモノでひっかいたときの傷のつきにくさ」である。そして、モース硬度は単に標準鉱物との関係を表す尺度である。くわえて、数値間の引っかき硬度の変化は比例しておらず、硬度1と硬度2の間の差（距離）は小さく、9と10の間の硬度の差（距離）は大きい。以上のようにモース硬度の10の数値は、硬度の順序を示しているだけであって、数値間の間隔が等間隔であることは意味していないのである。

現行の職業性ストレス簡易調査票における4段階の順序尺度は、仕事についての回答肢は、①そうだ、②まあそうだ、③ややちがう、④ちがう、の4段階。最近1か月間のあなたの状態については、①ほとんどなかった、②ときどきあった、③しばしばあった、

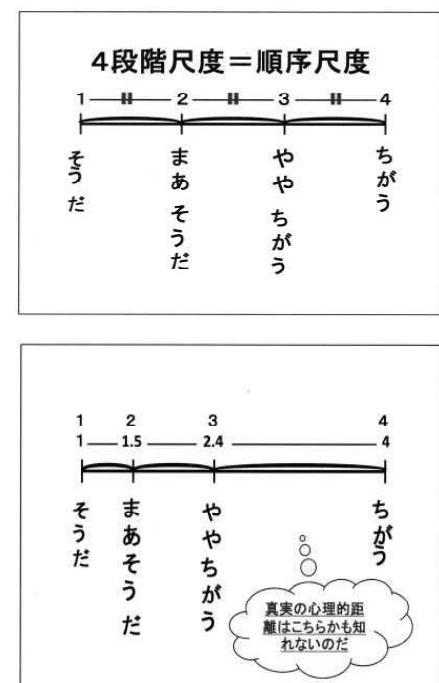


図. 1 順序尺度の間隔

④ほとんどいつもあった、の4段階。周囲の方々については、①非常に、②かなり、③多少、④全くない、の4段階である。それぞれの4つの回答肢における、隣り合う選択肢間の心理的距離が等間隔である保障はまったく存在しない。ただ順序だけは、示されている順序で正しい。しかしそれは、図1の上図のような等間隔である保証はなく、場合によっては図1の下図のような不等間隔であるのかも知れない。しかしそれは、現状では誰にも分からぬのである。そして、（算術）平均値をとることが出来るのは、間隔尺度以上の尺度である。

ストレスチェック制度という心理学にごく近い領域における心理評価の方法において、算術平均が使えない順序尺度において、算術平均がおこなわれていることが大層気になる。心理学の専門からはいささか距離がある音響学において、その学会誌に尺度構成法が説明されていて、学会員の方々の共通認識として機能しているにも関わらず（谷口、2017）、国が求めるストレスチェックにおいて事業所の担当者を含めた教育が行われていないことに、大変な驚きを感じえない。

1.2. ストレス応答の恣意性に関する問題

現行のストレスチェック手法では、応答者の恣意性を完全に除去することが出来ない。「顔で笑って、こころで泣く」のがヒトである。顔で笑っていることだけの表出的側面を捕らえているだけでは、真実のヒトのこころは捉えられない。すなわち、現在のストレスチェック測定法における応答データの真実性や客觀性に関する疑問が払拭出来ない。

たとえば、軍隊や軍隊的組織や軍隊様組織において、現行のストレスチェック測定を実施したとしても、返されたデータが真実の反応を反映しているのかどうかは大層怪しい。なぜなら、この種の組織においては、力強さや積極性や上官命令への恭順性などの評価は、ながらく保有してきた強力な組織文化の影響を受けているのである。したがって、たとえストレスチェック評価をしても、記入する組織人たちは、上記のようなイメージに沿った応答のみを返してきて、真実の応答が返ってくることはまれだと考えられる。実際に、某警察官は、「先生、いまのストレスチェック制度は意味ないですよ、僕たちは組織が期待しているイメージに沿って答えるだけですから…」と言われたことを記憶している。彼らは、きびしい階級社会のなかで、職階上昇してゆくための勤務者イメージをかなり固定的にとらえている。そして、そこから逸脱することは、職階上昇ラインから外れることを想定してしまうのである。

D社では、入社2年目の男性社員の過労死が1991年に起きて、2000年に1億6800万円の和解金が支払われた。しかしふたたび、2015年にも女性社員の過労死が起きた。この時にはついに社長の首が飛んだ。長らくの組織文化の抜本的変更が短期日のうちに、難しいことを示している。そして、組織文化を根底から変えることが如何に難しいかを思わせる事例でもあった。この組織文化と過労死が結びつきがちな事業所では、とくに現行のようなストレスチェック法の適用は、今一度再考する必要があると言える。

ストレス受容の真実をとらえることが出来る、恣意性が入らない客觀的なストレスチェック測定法が新たに必要なのである。

2. 改善へ向けて

2.1. 客觀的指標を求めて

感情や表情の背景に、<動いているこころ>を客觀的にとらえるためには、どのように考えて、アプローチを組み立てて行くべきだろうか。ヒトへ向けた物理化学的環境影響や精神心理的環境影響を正確に、かつ嘘偽りなく測定するためには、フローを描きながら説明すると、図2のようになる。ヒトは、顔で笑って、こころで泣く動物である。表現したものが、受けたことを正確に客觀的にあらわしているとは限らない。そしてウソをつく動物でもあるのだ。したがって、こころのセンターである脳活動、あるいは脳活動の結果をとらえる必要がある。加えて、情動的変化に支配されやすい変化をとらえるためには、早い生体変化をとらえる指標は必ずしも必要ではなく、換言すると電気生理的反応よりホルモン変化反応のような変化スピード

事象に注目する必要がある。息子の行為に対して、おやじが怒って息子をビンタした。しかしビンタの後にみられたおやじの怒り表出は、もっと大きな印象を受けることがある。ここからのヒントは、電気生理的反応よりホルモン変化的スピードに注目する必要があるだろう。

2. 改善へ向けて

2.1. 客観的指標を求めて

ウソがつけない客観的指標をいかに巧みに捕集するかが重要である。

また、図2のなかにあるような電気生理学的な変化指標は、反応時間は早いが、情緒的反応の反映をとらえるためには、もう少し遅い反応系からデータ捕集する必要がある。

精神性発汗のデータをとらえることを考えてみよう。従前研究は、Galvanic Skin Reflexを電気生理学的にとらえることが多かった。しかし、この電気生理学的反応の波高が物理的な発汗量と完全に1対1対応している保障には欠けている。さらには、精神性発汗における発汗成分解析にも、さらなる可能性を有していると考える。

2.2. 生理心理的指標

ある図版や写真を見せて、その図版等を見たときの興奮度合を4段階尺度で書いてもらっても、本当に正しく答えているかどうかの保証はない。それよりも、安静時心拍をとらえておいて、当該図版を見たときの心拍数上昇を測定し、安静時ベースラインからの上昇割合を算出する方が、より客観的指標になる。これは、ヒトが自律神経系反応を意図的に変化させることが出来ないからである。つまり客観的指標の候補は、影響を受けている時の自律神経系の生理心理学的指標をいかにうまく捕らえるかにかかっているのだ。

面接試験を受けている時、その緊張のあまり、机の下で何度も手掌の汗を拭った経験の方が多いと思う。精神緊張、注意・構え、怒り、恐れ、驚きなどといった精神ストレスがかかる場面では、いわゆる「手に汗握る」ことを経験する。この種のストレス度合を、感度高く捕集できるならば、ストレスによる緊張度合を客観的指標として捕まえることが出来る。ヒトの発汗反応には、①温熱性発汗と、②精神性発汗の2種類が存在している。そして温熱性発汗と精神性発汗の部位は異なっている。精神性発汗部位は、前額や手掌が顕著な部位である。

実際の労働場面におけるデーター捕集は、コンパクトな装置に仕上げる必要があるが、ここでは可能性の検討のために行ったもので、高分子湿度センサーを用いた発汗測定器を組み立ててみた。シリカゲルを通過した環境温と同一の乾燥エアをつくり、そのエアを一定面積(176mm²)の手掌発汗部位へ当て、その直後の温潤化したエアの測定をした(図3)。蛇足ながら、本図は学会発表のために筆者がみずから描いたものである。気流速度は、1.2L/minである。

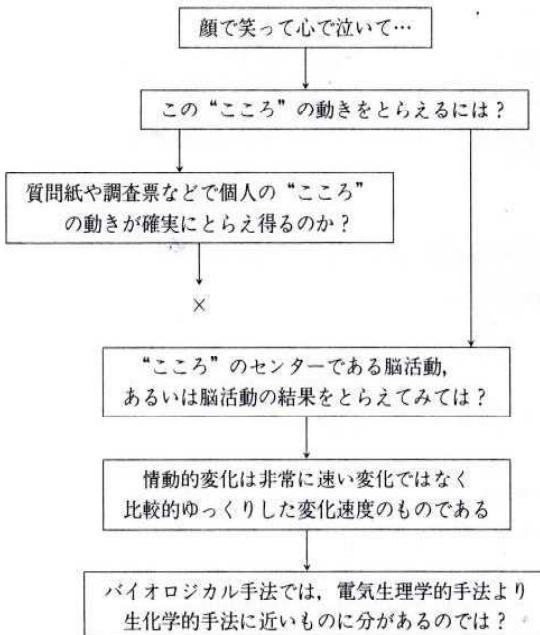


図. 2 流れ図による説明 (三戸, 1996)

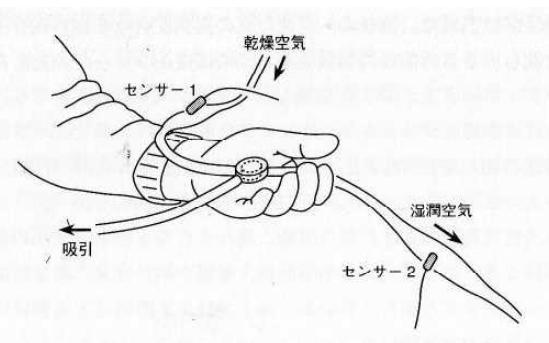


図. 3 手掌発汗捕集装置 (三戸, 1990)

った。ストレス性刺激は音刺激を用い、50dBの白色雑音を1分間、両耳聴で聞かせた。測定結果は、図4の通りであった。センサー1による湿潤水準は、絶対湿度2g/m³であったが、手掌を通過するとセンサー2では、4.5~5.0g/m³に上昇し、この2g/m³の湿潤化水準は平常時における負荷量をあらわしていると解した。さらに白色雑音負荷が加重すると、そのピークは6.0g/m³越えまで上昇した。ちなみに発汗捕集器は二重の円形構造のものを用い、手掌捕集面の直径は15mm、面積は176.7mm²であった。捕集面を常時、手掌に吸着させておくため、発汗捕集器は同心円様構造を有し、湿潤化工アに接する面の周囲に同心円状にとりまく部分から空気を吸引し、タコの吸盤よろしく吸着する構造をもたらせた。

本研究は、筆者が新設大学の立ち上げのために異動をして、過労死寸前の多忙状態において（注：過労死寸前の診断書を大学へ提出）、研究中止をせざるをえなくなったものである。しかしながら、ここに例示したように、客観的指標をいかに巧みに開発するかにかかっており、それをストレスチェック場面で活用することが重要で、かつ喫緊の課題であると考えている。

おわりに、某労働現場において、上司による職場監視（背面監視）が厳しくて、多くの部下たちが不快に感じ、労働科学研究者たちが現場調査におもむいた際、労働者たちが異口同音、背面監視時の不快感を日々に述べたとを経験した。このような場面における労働ストレス評価は、今回検討した発汗捕集装置を前額にセットして捕集すると、客観的データーが取れると考えている。さらに、発汗の成分測定へも広げて検討する必要があろう。電解成分として、ナトリウム、塩素、カリウムなどがあり、さらに尿素、乳酸、糖なども含まれている。また、汗のタンパク濃度は約0.1~0.2mg/ml含まれ、これには数種の酵素（エステラーゼ、ペプチダーゼ、プロテアーゼなど）活性が見つかっている。タンパクには、アルブミンや免疫グロブリン、その他数種のタンパクの存在が報告されているので、今後の研究を待ちたい。

【追記】

心理学の一研究分野に感覚・知覚研究がある。センシング技術応用研究会へ参加する心理学研究者ることはほとんど聞かない。心理学は文系学問であると考えているひとが、臨床心理バブル以降に増えはじめた。臨床哲学の大坂大学名誉教授（阪大総長）であった鷺田清一は、2016年に朝日新聞紙上で、「心理学は文学部にあることが多いけれど、実験して統計をとって分析して、と理系の手法で考える学問です。文と理は対立する学問ではないんですね。一つのことを両面から探るのが学問なのです」と述べている。戦後、心理学は科学的に研究展開をさせることができ熱心に進められたが、昨今のあまり科学的でない心理学状況が気掛かりである。

大阪では全国ではまだめずらしい「センシング技術応用研究会」が、1977年8月9日に発足した。会長は三戸左内（シャープ株式会社・中央研究所所長）であった。三戸は10年間の研究会・会長をして、浜川圭弘（大阪大学）へと引き継いだ。大阪府はセンシング研究振興を評価し、会長へ知事賞を与えて顕彰した。さらに研究会は、2002年5月24日に「三戸先生を偲ぶ会」を開催している。当研究会は、当該研究領域のますますの重要性に支えられて、現在も活発な研究活動が行われている。ここにおける湿度センサーを心理学研究へ活用したものが、本報での客観的指標を求めた生理心理学的研究である。加えて、汗の成分解析においてもセンシング技術の応用可能性があることを付言しておく。

【参考図書】

Stevens, S.S. 1951 Mathematics, measurement, and psychophysics. In Stevens, S.S. (ed). Handbook of Experimental Psychology.

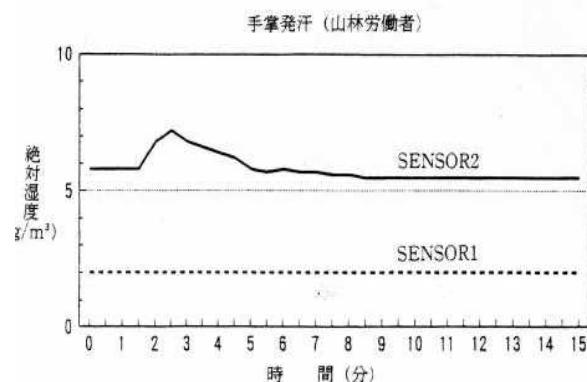


図. 4 手掌発汗の捕集例（三戸ら、1990）

New York: John Wiley and Sons, pp.1-49.

三戸秀樹, 大城修, 広澤巖夫、福地保馬 1990 ストレスによる手掌発汗の定量的計測の検討. 人間工学, 26 (suppl.): 146-147.

三戸秀樹 1996 第9章 感情、表情そして身体表現：顔で笑って心で泣いて、心理測定の基本問題について考える. 宮田洋（監）現代心理学シリーズ2「脳と心」，培風館（東京），pp.63-70.

三戸秀樹 1997 ストレスと事故の関係ーこれから安全活動にストレス対策をー. 電気評論, 82(5):26-30.

三戸秀樹 1996 ストレスは冷や汗で測るー震災経験諸防止対象に調査へー. 毎日新聞（9月26日夕刊），3版p.17.

三戸秀樹 1998 労働起因性健康障害・災害の生理心理学的評価. 生理心理学第3巻 新しい生理心理学の展望. pp.104-115.

三戸秀樹 2010 自殺の社会状況とEAP. 関西福祉科学大学EAP研究所紀要. 4号, pp.1.

鷺田清一 2016 すべての研究は「文」に通す. 朝日新聞（4月7日朝刊）.

谷口高士 2017 心理評価実験における尺度構成の方法. 日本音響学会誌, 73(12):774—782.

初代事務長の山本修司氏を悼む —没後8年目にあたって—

三戸 秀樹

三戸の二代目代表理事就任は、2018年4月からである。そして、本MHC会報の初刊行は2020年9月からで、山本修司氏の2017年12月31日逝去後の発刊となる。この紙面をお借りして、彼への報恩の記事を会報に認めておきたいと思う。

大学院連合メンタルヘルスセンター（MHC）が2009年5月に発足し、2009年11月に大阪市から特定非営利法人の認可がありました。山本修司氏には、この創設時の事務局長をお願いし、2014年3月まで事務局長を勤めていただきました。何も無いなかからの草創期の事務系作業で、特定非営利法人のための大阪市への申請作業も含めて、大変なご苦労をおかけしました。

山本氏は1948年6月28日のお生まれです。小学校4年生の時に腎臓病を発病され、以来の透析患者となられ、わが国における透析患者のごく初期の患者にあたります。京都工芸繊維大学・工芸学部・電気工学科を1971年にご卒業されました。松下電工へお勤めになられました。そして一生独身を送られました。その後、松下電工のチャレンジライフ制度を活用されて、早期退職をされ、関西福祉科学大学へ入学されました。そして御縁があって、三戸の学部ゼミと大学院修士ゼミへ所属されました。三戸とは年齢が4歳だけお若くて、ほとんど違わない年齢の方になります。2001年度の御卒業生で、卒業論文は「交通事故における自転車の関与する事故原因の実態報告」でした。加えて修士課程の卒業は2003年度卒で、その修士論文は「自己管理が重要な患者（障害者）を指導・助成する医療スタッフに有用な心理検査の検討」でした。

大学院修士課程の御卒業後は、医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker, MSW)として活動をされ、大阪MSW協会の事務局の事務局長を務めておられました。折りしも、大学院連合メンタルヘルスセンター発足の動きが出て、小生から事務局長就任のお願いをいたしました。彼はMSWの方を辞めて、立ち上げ作業が大変なセンターへ注力をして下さり、無事に発足へこぎつけて下さいました。

発足にあたっては、社会保険労務士の三島佐智さんへも申請手続きのお手伝いをお願いしました。彼女は、関西支部が主催する日本産業カウンセラー養成講座で三戸の講義を受けられ、個人的にさらなる産業心理学の勉強をしたい旨を申されました。折りしも、三戸は学部長を引き受けていたので、この期間は多忙で大学院ゼミ担当をすることが出来ませんでした。このため、帝塚山大学の森下高治さんを紹介し、森下先生の研究室へ通われました。

山本さんはMHCの立ち上げからの多くの諸作業をこなして下さり、一定の流れへ乗せて下さいました。このため、2010年6月19日の発足記念パーティーの仕切りや、発足ほどなくして2010年9月に起きた、理事3人の脱会騒動などへも対応をして下さいました。加えて、当センターのシンボルマークが使われていますが、このデザインの提案者でもあります。本デザイン

の意味や思いについては、過去の資料探索をして、後日、会報へ掲載したいと念じます。

山本さんは透析負荷からくる体調を危惧されて、辞意を表明されました。このため時の森下高治代表理事は、山本事務局長の後任として、森下ゼミ出身の松尾哲郎君を推薦され、松尾君は2014年末から事務スタッフとなって、2015年4月から事務局長を引き継ぐことになりました。その後、山本さんは2016年に守口市の老人ホームへ入所されました。同年7月頃から体調が良くなくて、歩行が難しくなられ、浮腫が出て、病院へ週4日通われることになりました。そして、2017年12月31日に享年69歳で亡くなられました。事務局長の松尾君は2020年3月まで、2020年4月からは西山涼一氏に事務局長をお願いしました。なお2018年3月、森下代表理事は健康上理由によって代表理事を退かれ、2020年12月19日には退会届を出されて受理されました。2018年4月からは、三戸が代表理事を引き継ぎました。

2017年12月31日に山本さんの訃報がはいって、事務局が弔電を打たなかったこと。弔慰金規定の内規があるのにもかかわらず、香典・供花等何もしていないことも気掛かりでした。さらには、MHCへの大きな貢献者である山本氏への慰霊的取り組み“偲ぶ会”をしていないこと。しかし彼の貢献を考えて、何としても弔意の記録を残しておきいと考えました。山本さんは独身で、お一人で生活をされていたので、その連絡場所へ没後コンタクトをとりましたが、御遺族との連絡がとれませんでした。回り回って、山本氏の姉上さまのお電話番号が分かったので、大変長いお話を電話で致しました。山本氏が奈良県で1948年にお生まれになられて、その時に福井県で同日6月28日に大きな地震があって、奈良県も相当揺れた旨のお話も伺いました。彼の誕生と、その先で透析患者になられる災厄を予言するような感じがしたとのお話をされました。山本氏は、小学校時代に腎臓病を患われ、その後透析が必要なお身体になられました。彼の生前の言葉によれば、日本で2番目に古い透析患者だったと申されていました。そして、お骨は橋本市の墓地に埋葬する旨のお話を姉上様からうかがいました。

ニュース

●日本労働科学学会の2025年5月23日のイブニングセッションにおいて、「コンプライアンス違反行動：根底にある心理構造」と題して、ZOOMを用いて18:00から19:30まで、三戸代表理事が講演しました。

●日本ベジタリアン学会から、代表理事が第9回日本ベジタリアンアワード“学術賞”を2024年6月23日に受けました。ベジタリアン学会は、今から30年前の1995年に設立されました。主宰者は垣本充先生でしたが、三戸は立ち上げメンバーの一人でした。当時の日本ではベジタリアンやビーガンという言葉は、一般的用語ではありませんでした。しかし、2020年の東京オリンピックの折には、当学会の英文ホームページへのアクセス数が一気に高まりました。そして近年、英国のビートルズのポール・マッカートニーが主催するミートフリーマンデーの世界的拡大、そして昨年のノーベル文学賞受賞者のハン・ガンさんは、ベジタリアンでした。世界は確実に、ベジタリアン増加の時代へと歩んでいます。加えて、アニマルライツへの関心も随分高まりました。海外から日本への旅行者は、2024年度は計約3687万人でした。来日者のうち約3%がベジタリアンだと考えられます。ということは、総計110万人の来日者がベジタリアンであったことになります。1日3食の食事をとり3日間滞在であれば、計990万食のベジタリアン食が必要となります。しかしこれに見合った対応が、現在、出来ているのでしょうか？

●カスハラ対応の法律が、2025年6月5日に成立しました。

●日本学術会議に対し、菅総理大臣による2020年10月の任命拒否問題について、5年あまりのあいだ、この原因も責任も明らかにしないままでした。2025年6月11日の国会(参議院本会議)において、日本学術会議から独立性を奪ってしまう法律が成立しました。この国は、いま新しい戦争の戦前であるとテレビで言ったのはタモリさんでした。日本学術会議が、戦争加担するような研究体制にならないことを望みたいと念じます。

●厚労省は、過労死等の労災補償状況を6月25日に発表した。労災認定件数は、昨年度より196件多い1304件であった。顕著だったのはうつ病などの精神障害で、1055件と千件を超えた。そして労災請求は、3780件で過去最多であった。原因別では、パワハラが最多。次いで仕事内容・仕事量の大きな変化、さらにカスハラと続いた。

●1918年の米騒動は、日本陸軍がシベリア出兵のために米を大量に買い込むことを見越す投機行為が最大原因であった。この結果、神戸の商事会社・鈴木商店が焼き討ちにあって倒産をし、当時の寺内内閣は総辞職となった。同様な食料不安と絡んだフランス革命、また、第一次大戦による食料危機後のロシア革命やドイツ革命など…、ここには歴史的法則性が存在している。現在は、米の値段上昇や価格安定化がなかなか進まない状況にある。市場変動の直接変動を受けないようにする政策は一体どこへいったのか…。命を守る食料事情を相変わらず市場経済へ委ねたままで、いまこそ眞の政治は出どきなのではないのか。市場経済に直結させたままの小泉さんに喝采をおくる時ではない。本当の政治的手段はどこへいったのか。

●某大手企業において、昨年、労災死亡が発生した。このため心理臨床家が動員され、残された労働者へ向けたメンタルサポートが行われた。しかし事故死亡が起きた安全課題に対するアプローチが十分に行われていないままであった。結果、労働者たちの不安を完全に払拭することが出来ないばかりか、心理臨床屋さんへの信頼感が次第に低下し、予期したカウンセリング効果が期待できなくなってしまった。そして、安全心理学の専門家による安全対策への期待が高まった。働く人へ向けたカウンセラーは、同時に安全対策が構築できるスキルを有するべきである。この2つセットで、初めて、事業所系で活躍出来るカウンセラーとなる。

●天皇のモンゴル訪問が7月にあった。皇太子時代の2007年訪問から数えて18年目だ。この間に、モンゴルからの留学生は4倍に増えた。語学学習の上で、モンゴル語辞書の発行は必須である。大学時代の親友・秋田幸孝君は商売抜きで、大阪外大の先生による分厚いモンゴル語辞書の出版を請け負って33年前1992年に上梓した。当時は、モンゴル留学生はめずらしい時代だ。彼は理学部・物理学科時代の同級生で、大阪市立大学・理学部の大学院博士課程へ進学した。相当悩んだと思うが、ヨーロッパ遊学を経て、学業を諦めて家業の印刷会社を引き継ぐことにした。その後は、母校関学の月刊誌「クレセント」印刷も引き受けおられた。クレセントの価格を低く抑えるために、随分と苦労をされていたことを思い出す。この印刷会社が、タカラ出版サービスの名前で蒙日辞典を赤字出版したのである。この期に、辞書発刊の労に対する顕彰があってもおかしくない。

事務局だより

●ストレスチェックのデータを処理するためのコンピュータ処理システムの“MENTALINK（メンタルリンク）”が、6月から稼働を始めた。従前は、GMTのソフトを活用してきました。しかし、GMTが本業務から急に撤退されたため、新規にSiren社へソフト作成の委託をしました。

●MHCのホームページ（www.mental-health-center.jp）を開く際に、右のQRコードを活用下さい。



編集後記

●巻頭言では、4月13日から始まった大阪万博開催にちなんで、1970年の大阪万博と比較しながら述べてみた。万博テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」から、日本国としての限界集落化が見える先行きに対し、何も答えていないと言いたい。

●関学の大学院生の頃、近畿大学・理工学部・経営工学科の男子4年生の卒業研究の書き上げを、近畿大学の指導教授から頼まれたことがあった。男子学生G君は韓国姓の人で、お父さん

は濟州島から来られた人だった。詩人の金時鐘さんと同じ日本への逃避行をされたのではないかと思う。彼等が日本で生きるために、一体どのような仕事をしてきたのだろうか…。

加藤登紀子さんが今春に韓国の濟州島を初めて訪れ、“濟州4・3平和公園”を訪れた。三戸も濟州島で起きた1948年の2万数千人の大虐殺事件は僅かしか知らなかつたので、2017年2月に濟州島を訪れた。しかしこの旅では、韓国のガイドさんが話題を避けるので、あまり詳しく聞いたり、慰靈碑を訪れることが出来なかった。

泉北高速鉄道「光明池」駅から徒歩範囲に大きな貯水池・光明池がある。この人工の池の土手に、韓国労働者たちの慰靈碑がある。隣国からの労働者の問題について、もう少し思いを馳せるべきではないかと思う。

●ストレスチェック測定法における、これまでのあまり科学的でない測定手法について、長らく気になっていた。本報において、かなりの紙数を使って言及した。

(編集子)